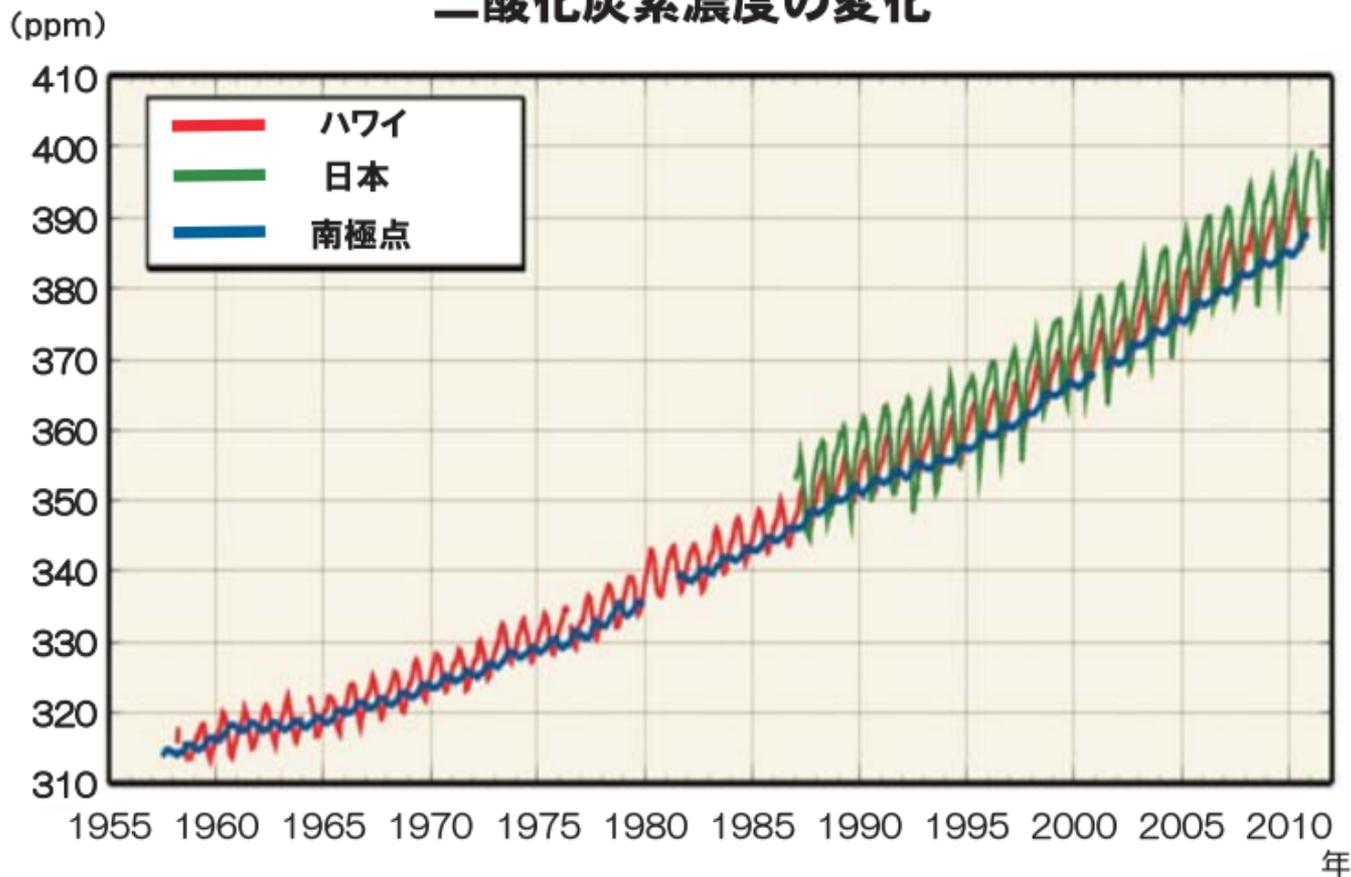


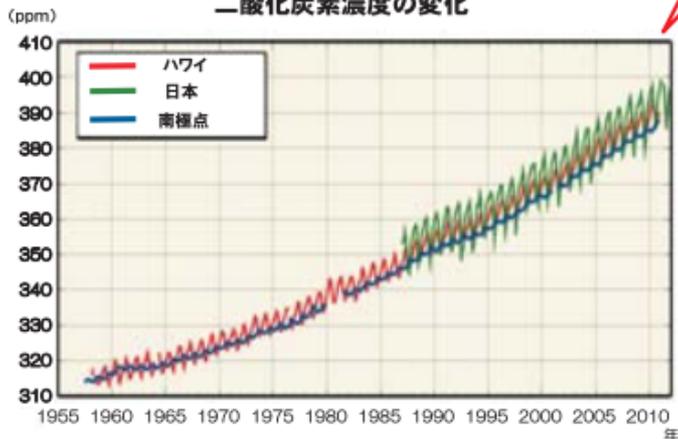
二酸化炭素濃度の変化



【ねらい】

私たちの身近な香川での温暖化の現状をとらえて、地球の温暖化について関心を高めるとともに、温暖化の原因やその影響について考えさせます。

二酸化炭素濃度の変化



【資料解説】

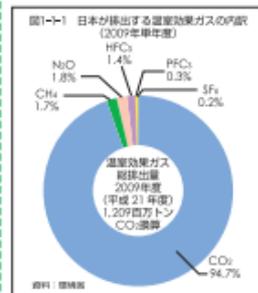
このデータは、**ハワイのマウナロア**、**日本の綾里**（岩手県大船渡市）、**南極点**における大気中の二酸化炭素の月平均濃度の経年変化を示すものです。南極点では1957年から、マウナロアでは1958年から、また綾里では1987年から観測が行われています。南極点やマウナロアで観測が開始された当時、大気中の二酸化炭素濃度はおよそ315ppmでしたが、季節変化を伴いながら、その後年々増加し、気象庁が運営するWDCGG（温室効果ガス世界資料センター）による2010年の世界平均濃度は389.0ppmとなっています。**現在の濃度は、産業革命以前の平均的な値とされる280ppmと比べて39%増加しています。**

出典：気象庁
「気候変動監視レポート2010、2011」

【参考】

二酸化炭素は、地球温暖化に及ぼす影響が最も大きな温室効果ガスです。近年の人間活動の拡大に伴う化石燃料の燃焼などによって膨大な量が人為的に排出されています。なお、**日本が排出する温室効果ガスのうち、二酸化炭素の排出が全体の排出量の約95%を占めています。**

【平成23年版環境白書】



【関連する各教科の学習内容】

	中3	中4	中5	中6	中1	中2	中3
社会		地域の人口の生活	小5 公民と国民の権利・生活環境	中6 世界の多様な日本	【地理】 ○世界と比べた日本の地理的特色(気候・エネルギーと産業)		
理科				○生物と環境			
技術・家庭科(環境)							
家庭科			環境に配慮した生活の工夫				
技術・家庭科(家庭)							